

クラウドサービスのQ&A

目次

クラウドって何のこと-----P1	クラウドを使うと何が便利に-----P1	クラウドはどうして無料に-----P1
クラウドはどうやって始めるの---P2	操作は難しくないの-----P2	データなど消えないの-----P3
クラウドを止めた時のデータは---P3	データを他人に取られないか-----P3	クラウドにどんなサービスが-----P4



「クラウド」を日本語に訳すと、「雲」だ。もともとは、PC やスマホで扱うメールや写真、音楽といった各種データを保存しているインターネット上のサーバーを「雲」に例えたことから、「クラウド」という名称が用いられるようになった。

雲にたどり着くのは容易なことではないが、空を仰げば、いつでもどこでも雲を見ることができる。これと同様に、クラウドのサーバーも、設置場所はわからないが、どこにいても、ネットにつながる環境さえあれば、簡単にアクセスできるのだ。

現在、クラウドで利用できるサービスは、データのバックアップや、スケジュール・連絡先の管理、動画や音楽の共有など、実に多彩。いずれのサービスも、「サーバーに保存されているデータを利用している」点が最大の特徴である。

例えば、Google のウェブ検索も、広い意味ではクラウドサービスの一つ。キーワード検索時には、サーバー内の膨大なデータベースから、最適な結果を瞬時にはじき出している。このように、サーバーを活用したサービス全般を、実は「クラウド」と呼べるのである。



「スマホで撮った写真を、すぐに PC でも見られたら便利なのに」と思った経験はないだろうか？通常、スマホで撮った写真を PC で閲覧したい場合は、両者をケーブルで接続するなどしてデータ転送を行う必要がある。実にめんどうだ。

しかし、こうした不満も、クラウドサービスを活用すれば、一気に解消する。例えば、写真を撮ったら、A というクラウドサービスに自動的にデータがアップロードされるように設定しておく。そして、PC やタブレットでも A のサービスを利用すれば、即座にその写真が閲覧できるようになる。つまり、ネットにつながる環境さえあれば、複数の機器から望みのデータにアクセスできる。

ここでは、写真を例に挙げて解説したが、クラウドサービスではさまざまなデータが扱える。動画や音楽、オフィスソフトのデータや PDF も OK だ。例えば、「ワード」や「エクセル」などの仕事で使う文書をそのままクラウドに保存しておけば、出先でもノート PC やスマホなどで簡単に利用できる。大切なデータを家に置き忘れてしまったなんて手痛いミスとも無縁になる。



多くのクラウドサービスは無料で利用できるが、有料のプランも別途提供されている。サービスの運営費は、こうした有料会員からの収益で賄われていると考えていい。

そのため、サービスの事業者としては、より多くの有料会員を獲得することが重要と

なる。とはいえ、いきなり有料会員になるユーザーはまれだろう。そこで、まずは「無料」を呼び水に多数の会員を獲得。実際にサービスを試してもらい、そこから有料会員になってもらおうと、もくろんでいるのだ。

ただ、Googleに限っていうと、こちらはウェブ広告の収益も大きい。ユーザー数が多く、世界中からの圧倒的な閲覧数を誇る「Google 検索」を持つ同社ならではのビジネスモデルといえる。

クラウドサービス
はどうやって
始めればいいのか？

以前は、クラウドサービスを始める際には、まず、PCでユーザー登録を行う必要があった。しかし、現在では大半のサービスがスマホやタブレットからでも、ユーザー登録が可能だ。ここでは、クラウドサービスの「Dropbox」を例に、iPhoneを使った利用手順を簡単に説明しよう。

まず、サービスを利用するには、専用アプリが必要。ホーム画面から

「App Store」（Androidの場合は「playストア」）を起動し、「Dropbox」の公式アプリをインストールしよう。

初回起動時は、ログイン画面が表示され、ユーザーIDとパスワードの入力が求められる。もちろん、初めて利用するときはアカウントを持っていないので、ここでユーザー登録を行う。ユーザー登録画面を表示し、氏名やメールアドレス、パスワードなどの必要事項を入力して、自分専用のアカウントを作成しよう。

ユーザー登録が終わったら、再びアプリのログイン画面に戻って、作成したユーザーIDとパスワードを入力。ログインしたら、あとは、いくつかの設定さえ済ませれば、すぐにサービスが利用できるようになる。なお、ユーザーIDとパスワードを忘れて、サービスにアクセスできなくなってしまうので、大切に管理しておこう。

ほかのクラウドサービスの場合も、基本的な流れは同様と考えていい。いずれも、公式アプリを入手してから、ユーザー登録をするという点がポイントだ。



スマホアプリや
PCの操作は
難しいくない？

「クラウド」という言葉の響きから、難解な印象を受ける人がいるかもしれないが、ふだんからスマホやPCを使っている人なら、まず心配はいらない。メールを書いたり、カメラで写真を撮ったりするのと同じ感覚でサービスを利用できる。

利用するサービスやアプリによって細かい操作方法は異なるが、スマホアプリの場合は、ファイルやフォルダ、機能アイコンなどを指でタップするだけで、大方の操作が可能。

また、PC の場合は、ファイルやフォルダをマウスでドラッグするなど、通常の PC 操作で OK だ。



例えば、情報スクラップサービス「Evernote」のスマホ用アプリでは、クラウド上に保存したデータを見やすいレイアウトで一覧表示してくれる。



Windows版の「Evernote」アプリでは、3分割形式のメイン画面を採用。必要な情報に素早くアクセスできるが、操作には慣れが必要だ。

とはいえ、スマホや PC の操作に不慣れな人は、いきなりクラウドサービスを使うことに不安があるだろう。でも、大丈夫。特にスマホ用アプリは、直感的に各種操作が行えるように考えられているので、最初はスマホで始めてみるといい。機能面も必要最低限に抑えられ、安心して使い始める

ことができる。一方、PC ではさまざまな機能を利用できるが、そのぶん操作が煩雑。決して難しくはないが、そのすべてをマスターするには相応の時間が必要だ。



PC の HDD に故障のリスクが皆無とはいきれないように、クラウドにも「絶対」はない。可能性としては低いものの、予期せぬサーバーのトラブルによって、データが消えてしまうおそれはあるだろう。

とはいえ、サービスの運営側も大切なデータを消失してしまわないように、サーバーの管理には万全を期している。もちろん、過度の信頼は避けるべきだが、クラウドに不具合が起こる可能性は、手持ちの HDD が壊れるよりもずっと低いはず。それでも心配なら、別の手段で、定期的に PC やスマホのデータをバックアップしておく

いいだろう。



クラウドサービスから退会した場合、基本的にデータはすべて消去されてしまう。ほとんどのサービスは無料で利用できるもので、よほどの事情がないかぎり、使わずとも退会はせず、アカウントだけは残しておくのが無難だ。どうしても退会しなければならない場合は、あらかじめ必要なデータをバックアップしておくこと。退会後のバックアップは、もちろんできないので要注意。



重要なデータが保存してあるクラウドサービスを、第三者に悪用されてしまっただけでなく、クラウドサービスでは高度な暗号化技術が施されており、セキュリティ対策には抜かりはない。ただし、ユーザー自身が、自分のユーザーID とパスワードをうっかり漏らしてしまったとすれば、話は別だ。誰かにデータを盗まれないよう、パスワードの管理は厳重にしよう。

クラウドには
具体的に
どんなサービス
があるの？

現在、特に人気が高いクラウドサービスといえば、ストレージ型だ。その嚆矢は、2008年に米ベンチャー企業によってスタートした「Dropbox」である。

「Dropbox」の特徴は、ネット上のデータボックスをHDD（ストレージ）のように利用できるという点だ。ネット環境さえあれば、いつでもどこからでも必要なデータにアクセスできるという手軽さが好評を博し、瞬く間にクラウドサービスの代表格へと成長。マイクロソフトの「SkyDrive」や、ヤフージャパンの「Yahoo!ボックス」など、後発サービスの多くが「Dropbox」と似たストレージ型を採用していることから人気の程がうかがい知れる。

●無料で利用できる主なクラウドサービス一覧

アイコン	サービス名	運営会社	内容
	Amazonクラウド	アマゾン	大手通販サイトを運営するアマゾンによるストレージ型サービス。写真や文書など、あらゆるファイルの保存に対応。スマホ写真の自動アップデート機能も備える。
	Dropbox	ドロップボックス	ユーザーの招待などで最大18Gバイトまで無料で容量を拡張できるストレージ型サービス。データの共有や、スマホ写真の自動アップロードなど多彩な機能を搭載。
	Evernote	エバーノート	メモ書きや写真、音声メモなどを手軽に作成できる情報蓄積型サービス。ウェブサイトのクリッピングにも対応しており、気になるページのスクラップも可能だ。
	Googleドライブ	グーグル	文書やスプレッドシートなど各種ドキュメントの作成も行えるストレージ型サービス。「MSオフィス」系ファイルを「Googleドキュメント」形式に変換する機能も持つ。
	iCloud	アップル	iOS端末とMac、Windowsで使える多機能サービス。メールや連絡先、カレンダー、写真などを自動同期して、どのデバイスからも同じデータにアクセスできる。
	KDrive	キングソフト	「MSオフィス」文書の閲覧に対応したスマホアプリを使うストレージ型サービス。ユーザー招待やスマホアプリの利用などにより、無料で最大50Gバイトまで拡張可。
	Nドライブ	ライン	無料で30Gバイトの容量を利用できるストレージ型サービス。対応デバイスも多彩で、WindowsとMac、iOS、Android OS向けに専用アプリを提供している。
	SkyDrive	マイクロソフト	同社のスマホ向けOSである「Windows Phone」で利用できるストレージ型サービスだが、WindowsとMac、iOS、Android OS搭載デバイスにも対応。容量は7Gバイト。
	Sugar Sync	シュガーシンク	BlackBerryやWindows Phoneなど、多彩な端末に対応したストレージ型サービス。ファイル同期のほか、データの退避を目的としたバックアップ専用の機能もある。
	Yahoo!ボックス	ヤフージャパン	「ヤフオク」や「Yahoo!メール」との連携機能を備えたストレージ型サービス。保存した画像ファイルを、そのまま写真プリントサービスに注文することも可能だ。

しかし、昨今では、脱「Dropbox」とも称すべき新機軸のサービスも台頭し始めている。例えば、

「Evernote」は、テキストや写真などを記録できるクラウドサービスであり、「データの保存」が主目的の「Dropbox」に対し、情報の蓄積に重点を置いている。気になる出来事や写真などを気軽に記録しておける、いわばネット上の万能ノートのサービスだ。しかも、PCやスマホなど異なる端末から同じデータを編集できるため、あとで情報をまとめ直す手間もない。

このように現在のクラウドサービスは、ストレージ型と情報蓄積型の2種類が大勢を占めている。しかし、「Googleドライブ」のように、ストレージ型と情報蓄積型を兼ね備えたサービスもある。

主なサービスを左表に一覧したので、参考にしてほしい。

Yuuji

END